

達者です ③1

夢は気ままな温泉の旅

仲野正一さん

72歳 (通6区)

昭和59年に区長になると同時に、通地区区長会副会長に、翌年からは会長に就任、現在に至っている。長門地区環境衛生推進協議会の理事も務め、区長会として地区の清掃、ゴミ問題、野犬対策等に取り組んできた。この度、環境衛生改善功労者として県知事表彰を受賞。「区の世話になってきて、その恩返しのできで続けてきました。みなさんの協力があつたからこそ、今日までやってこられたと思っています」と話す。ただ、野犬が減ったかわりに、今度は猪が出てきて畑を荒らすようになり、対策に困っているという。

復員してから、55歳の定年をむかえるまで、ガソリンスタンドに勤めた。その後、近所でめざしの加工の仕事を手伝ってき

昭和62年、地区の先達により「俵山こぼれ話」が発刊されました。目を通すと、先祖の苦勞と人間味のある生き様がひしひしと読みとれ、人たる処必ず足跡が残っている事実と、応々にして消え去りがちなその足跡を、少しでも後世に残すべきだとの思いから、再び気持ちを同じく

古きを尋ねて

無名塾



福永学さん
(湯町区)

エンジンヨイ
仲間達

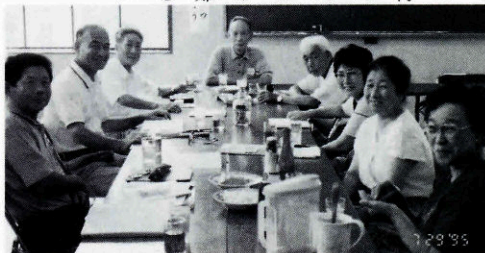
②8

する者で無名塾(仮称ふる里教室)を発足させました。

いま月1回、各区に順次おじやまして、古老の方々に古跡や地蔵様、祠の話、鉾山跡や旧道路、地名の由来等々、昔の話、伝説、奇説を伺っています。

日は浅く少人数のグループですが、和気あいあい楽しい集いです。それぞれの

地域を育てた土の匂いともくもりを感じながら、得難いものを掴んでいます。



ちょっと小耳にはさんだ

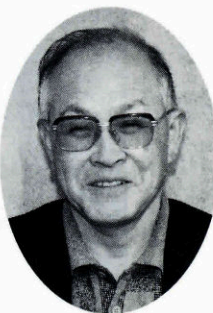
②1

市民の郷土史百編

「ながと歴史散歩」今春発行

中野良彦さん

(板持1区)



資料そしてアドバイスを受け今日に至りました。物事は真剣に取り組めば、次が見えてくるというのが百編を迎えた実感です。苦しまないと結果がついてきませんね」

広報掲載文を加筆、今春「ながと歴史散歩」として一冊の本に生まれ変わります。定価千二百円(予約特価千円)、図書館で予約受付をしています。

「長門の貴重な歴史に想いをさせて欲しい。今後は板持の歴史と長門の方言をまとめることが夢です。好きなことに関わらなから、いくらかでも社会のお役に立てればと思っています」

昭和62年6月、「横山白虹」を皮切りに、市広報に「ながと歴史散歩」と題し、郷土の歴史紹介が始まりました。以後平成7年11月まで、百編の郷土史連載に携わった中野さんは語ります。

